

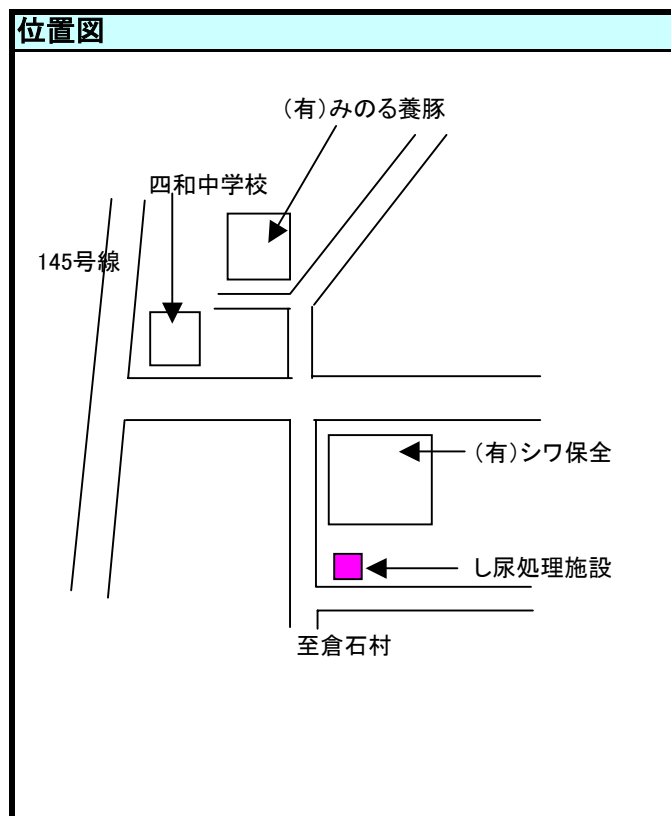
養豚経営

上北地方：十和田市

キーワード	概要
豚尿からの生物活性水作出	良質豚ふん堆肥の生産と供給。産学協同によるホタテ貝殻等を利用した尿処理技術の研究。処理水のながいも・にんにく等への施用試験。

設置事業概要	
設置年度	平成11年度
事業名	尿活性化リサイクル研究会
面積	224㎡（容積の合計）
事業費（㎡単価）	
施工業者名	自力施工
（連絡先）	0176-28-3006

経営の概要	
住所	十和田市大字米田字石倉44
氏名	みのる養豚
電話番号	0176-28-3006
頭数	繁殖豚 1,570頭 育成豚 75頭 肥育豚 6,000頭 子豚 4,000頭
飼料面積	自力施工のため不明
堆肥利用	
施設機械	



設置コメント

ビニルハウス内の地中に掘削した容積が異なる2種類の水槽（大75㎡、小37㎡）2槽ずつ計4槽からなり各槽には曝気装置と投入材料（モミガラ薫炭・ゼオライト・ホタテ貝殻）が設置されている。この装置によって得られる生物活性水は、Caなどのミネラルを豊富に含んだものとなる。

堆肥の流通利用状況	
自家利用率	
副資材の種類	なし
生産堆肥の成分	
堆肥の流通先、販売単価等	

堆肥利用コメント

適正な処理により得られた生物活性水を用いて、十和田市内の農家およびJAの畑で実際に試験したところ、ナガイモでは形状が太く、短くなり、可販部分の重量が増加し、農家の収入増に結びつくような良い結果が得られている。ニンニクでは、茎葉部の生育が旺盛となり、少し生育期間が後にずれる傾向が見られるが、充実したニンニクが得られることが判明した。



ビニルハウス内の地中に掘削した水槽がある。



手前に見えるのが、第4槽で処理水の最終段階のもの。奥から手前に第1槽、第2槽、第3槽、第4槽となっている。



丸太に吊るされているのが、投入材料（モミガラ薫炭、ゼオライト、ホタテ貝殻）。